

課外授業で苦手克服

平松 樹亜

日本体育大学 体育学部 体育学科
水戸市立千波中学校 卒業

授業は、予習してから授業を受けないといけないことがあります。しかし、予習や復習を徹底し、授業もきちんと聞いていれば、授業についでいけなくなることもほぼなく、定期的にあるテストや定期テストの対策にもなります。さらには受験勉強にも繋がると思います。課外は多様な教科で放課後や長期休業時に実施されております。苦手を克服するためにとっても良い機会だと思います。

それから、先生方がとても熱心に指導して下さるので、わからないことを質問すると、わかるまで丁寧に教えていただけます。私は特に定期テスト前や受験期の時にたくさん質問をして理解をするようにしていました。また、茨城高校には「進路指導室」という所があり、そこには様々な大学の赤本や、問題集、推薦入試の情報などがあり、書店でお金を出して買わなくても借りることができることがとても便利で私は何度も利用しました。

陸上部として活動していく中で、私は個人種目だけでなく4×100mリレーや4×400mリレーにも出場させていただきました。個人種目では味わうことのできない、みんなでタイムや結果を出そうという気持ちや責任を感じる経験ができました。4×100mリレーでは具体的な目標として、「県大会の決勝に出場する」という目標を掲げていました。その目標に向かってたくさんチームのみんなと練習したり話し合ったり、学校の練習のほかに陸上競技場に行って練習もしました。

結果としては県大会の準決勝 敗退で決勝に進むことはできませんでしたが、目標に向かって努力する中で生まれたチームメイトとの絆でしたり、何度もチームベストを更新したこと、顧問の先生に数多くのアドバイスをいただいたことなど、思い返すと陸上部として過ごした時間は私の高校生活のなかで最も濃く、充実していました。たくさんのごことを学ぶことができた陸上部での経験は私にとって一生忘れることのない大切なものです。

入学してすぐは一貫生と馴染めるのかと不安に思うことも少なくないと思うのですが、部活動でかかわりをもつとそこから友達の輪が広がっていったり、文化祭やクラスマッチなどの行事では一貫生とかかわる機会があるので、次第に打ち解けることができます。2年生の研修旅行の時は一貫生と高入生の隔たりがなく行動する場面も多くあります。また、3年生になると一貫生と高入生が混ざったクラスになるのでとても仲良くなれます。このように、3年間で一貫生と関わる機会はたくさんあるので徐々に仲良くなることができ、とても楽しいです。

私は将来アスレティックトレーナーになりたいと思っています。大学ではアスレティックトレーナーになるための専門的な知識や、スポーツの実践など、スポーツに関することを学んでいきます。また、フィンスイミングという競技に以前から興味があったので、大学内にあるフィンスイミングのクラブに所属して4年間頑張っていこうと思っています。私が今まで行っていた水泳と陸上とは競技は違いますが、私が今まで経験してきたことはこれからも生かせることだと思うので、生かしながらも、新たな経験を積み、日々成長していこうと思います。将来はアスリートを支え、信頼されるアスレティックトレーナーになりたいです。